

平成15年度事業計画

[基本方針]

修学旅行は、最大の学校行事であり、学校教育の総仕上げとして生徒の人間形成上重要な我が国独自の伝統的教育行事である。

近畿地区公立中学校修学旅行委員会は、急速に変化する社会の中で、学習指導要領のねらいとする「自ら学び自ら考える力」の育成を目指し、修学旅行の三原則（安全性の確保・教育性の高揚・経済性の適正化）を守りながら修学旅行のあり方を追求してきた。

修学旅行は今や見学・知識習得という一方向的な学習の場ではなく、触れ合い・共感・共生等を重視した双方向性を持った学習の体験化への方向をたどっている。各学校では修学旅行の学習を「総合的な学習の時間」と関連させることにより、より深みのある修学旅行が実施できるよう努力している。

平成15年度近公修委は、永年に亘る委員会活動の伝統と実績を踏まえ、近畿地区公立中学校が実施する修学旅行の改善向上を目指すと共に、新たな課題に積極的に取り組むこととする。

[重点推進事項]

1 研究活動の充実

(1) 研究大会

第18回近畿地区中学校修学旅行研究大会を成功させるために、各府県の協力を得て、時代に即した修学旅行のあり方を研究する。

- ・ 開催日 平成15年11月14日(金)
- ・ 会場 滋賀県大津市 生涯学習センター
- ・ 研究テーマ 「みんなで創ろう21世紀の修学旅行」
- ・ 発表府県 滋賀県・京都府

(2) 研究活動の充実

特色ある修学旅行実施事例の研究・発表

(研究大会の持ち方等に関する検討も含む = アンケートの意見から)

修学旅行実施状況調査

(「総合的な学習の時間」との関わり・体験学習の取り組み状況等含む)

(3) 修学旅行現地研修

これからの時代にふさわしい修学旅行先の研究・開拓

体験学習の研究・開拓

2 集約輸送の安全・充実

近修委・JR 等関係機関との連携を密にし、生徒の輸送が安全且つ円滑にできるよう努力する。

平成15年度近修委集約輸送

- ・ 学校数 398校 (前年度 451校)
- ・ 輸送人員 64、856人 (前年度 75、869人)
- ・ 運転期間 4月19日 ~ 6月13日

(平成16年度近修委集約輸送計画)

3 近畿地区における沖縄方面への輸送改善について

近年近畿地区においては、航空機を利用して沖縄方面への修学旅行を実施する学校が急増している。修学旅行の交通手段として航空機利用が一般的なものとなり、地域・保護者の理解も深まって来ている。また、航空機利用を許可していなかった一部府県等においても15年度から試行利用が認められるところから、更に利用校の増加が見込まれ混乱も予想される。

昨年度から近畿中学校長会修学旅行専門委員会（近修委）が中心となって、予測される混乱を回避するため本格的に取り組み始めているが、近公修委も歩調をあわせて取り組む必要がある。

4 情報連絡ネットの構築

- (1) 近公修委内の学校 E メールアドレスを事務局で集約する。
(毎年修学旅行実施状況で協力いただいているので、残りは少なくなっている。)
- (2) IT 時代に対応し、近公修委活動の迅速化・効率化を図るため、インターネットによる情報連絡ネットを近公修委組織内に構築する。
組織内の情報連絡は当分の間、郵便等による従前方式とインターネットの併用とする。
- (3) 組織内の通信連絡手段として、郵便・電話・FAX・Eメール・近公修委特設ホームページを併用する。

5 平成15年度事業・活動(案)

月	内 容
4月	新年度活動の諸準備
5月	総会等の準備
6月	平成15年度総会（6月13日）
8月	第17回現地研修
9月	平成15年度第一回運営委員会 近修委（申し込み様式決定）

10月	<ul style="list-style-type: none"> ・平成17年度 集約申し込み ・平成15年度 第2回運営委員会 ・平成15年度 修学旅行実施状況調査 ・全国修学旅行研究セミナー 10月31日(金) 日本青年会館 東京 基調提案・パネルディスカッション
11月	<ul style="list-style-type: none"> ・第18回 近畿地区中学校修学旅行研究大会 滋賀県大津市 生涯学習センター 11月14日(金) ・関東地区修学旅行研究大会 栃木県宇都宮市 プラザ・イン・くろかみ 11月14日(金)
12月	<ul style="list-style-type: none"> ・平成17年度 集約輸送原案作成 ・平成17年度 集約輸送抽選 ・平成17年度 集約輸送計画配布
1月	三地区修旅連代表者会議
2月	平成15年度 第三回運営委員会
3月	平成15年度のまとめと次年度への準備